

図書館だより

目次

読書する女性	——出渕 敬子	1
「今、学生にすすめる本」特集（その12）		
——飯田 文子	大塚 美智子	2
清水 康行	加藤 雅子	
清永 賢二	須賀 哲夫	3
杉森 長子	木村 武二	
宮本美沙子著『全人教育を願って』の紹介	——大畑 祥子	4
「森戸文庫」一玄閣ホール展示		5
オンライン・データベース		
「ProQuest」の使い方	——飯山 智子	6
平成14年度夏期スクーリング開館について	——田島 明子	8



読書する女性

出渕 敬子

今年のカレンダーも残り少なくなり、来年のカレンダーが店頭に並ぶ時期となった。毎夏をイギリスで過ごす友人が、お土産にと下さった2003年のカレンダーは、「読書する女性」の絵を12枚集めたものである。未知の年への希望と怖れを感じながら、1枚ずつめくってみる。1月はルノワールの「読書する少女」、手に持った本を凝視する少女の上気した顔に光があたり、読書の無我の境地が伝わってくる。2月はドイツのサレンティン、「一日の仕事を終えてくつろぐ」エプロン姿の女性が、竈の上に吊るされた大鍋と薪が見える土間の一隅で、頬杖をつき片手で持った本に真剣に見入っている。背後の細長い窓からさす外光が17世紀オランダのフェルメールの構図を思い出させ、魅力ある引き締まった表情は、農家の若い主婦なのか、それともお手伝いなのかと想像させる。3月はフランスのJ.J.ティッソの「読書」、大きなボンネットをかぶったエレガントな少女が「面白くて仕方がない」と笑みを浮かべ本の世界に浸りきっている。いまにも笑い声が聞こえそうだ。反対に、8月はドイツ表現主義画家A.マッケの「読書するエリザベス」、クールな知性の持ち主であるとともに、読書という行為の孤独をも思わせる。対照的に11月はイギリスのG.D.レズリーの「不思議の国のアリス」、ソファにかけて読み聞かせる母によりかかる7歳位の少女は、難しげな顔つきで一心に耳を傾け、その眼は想像の世界に没頭している者の眼をしている。この画家は、イギリスの風景画で有名なコンスタブルの初の伝記を執筆した画家C.H.レズリーの息子である。

ここに集められた絵はいずれも、読書する女性の至福のひと時を描いたものである。描かれた時期が1870年代以降1915年まで(日付のないものは別として)であるのも偶然ではない。18世紀以後徐々に広まった女性の読書の習慣が、ついに画家の目に新鮮な題材と映り、集中的に本を読む女性の肖像が描かれたのだと思う。古くは15世紀の『プレイフェア時祷書』の聖母マリア誕生の場面で、母である聖アンナがベッドの上で小型の本を開いている絵がある。本は祈祷書と思われるが、アンナの顔には読書のよろこびの表情は見られない。王侯貴族でも宗教界の人でもない普通の女性が読書する姿は、やはり19世紀後半から西ヨーロッパ各国の画家によって頻りに描かれたのである。

日本ではどうかと言えば、私の記憶に残る読書する女性の絵がある。数年前、駒ヶ根市で偶然見たものだが、明治期の洋画家中村不折の絵で、和服姿で机に向かう女性の知的な表情に強く惹かれるものがあった。あとでわかったことだが、この女性は本学の英文学部を卒業し、ウェルズ女子大学、オクスフォード大学に留学、帰国後本学大学本科で教え、後に同志社女子大学で英文学を講じた高田峯尾氏（1900～1973）で、父不折が娘をモデルに描いたものらしい。一枚の絵の背後にも「物語」が存在していると改めて感じさせられたことであった。（図書館長・英文学科教授）

「今、学生にすすめる本」特集（その12）

■飯 田 文 子（食物学科講師）

マッシモ・モンタナーリ著 山辺規子・城戸照子訳『ヨーロッパの食文化』平凡社 1999年

食文化に関する何かよい本はありませんか、とよく訊かれます。とくにヨーロッパの食文化については、原語のものは別として、日本語に訳されたものは、あるようでありません。というのは、例えば、イギリスの紅茶文化とか、ハプスブルグ家の宮廷文化、フランス料理の発展、各地の生活文化など限定されているものが多いので、それらすべてに目を通し、ヨーロッパ全体を把握するのは時間がかかります。この本は中世が最も詳しく書かれていますが、イタリアを中心としたヨーロッパの食文化の流れをつかむことが出来るよい本だと思います。そして、ヨーロッパと日本の食に対する歴史の違いや共通点を知ることにより現代の食生活がより深く見直されることでしょう。また、現在の飽食の世代には考えられませんが、宮廷で出された高カロリーで大量のお料理は、大半の飢餓の人々に対する大変な権力の誇示であったことが理解出来ることと思います。

■大 塚 美智子（被服学科助教授）

伊丹敬之、伊丹研究室編著『日本の繊維産業 なぜ、これほど弱くなってしまったのか』

NTT出版 2001年

今、日本の製造業は元気がない。特に繊維業界の凋落の経緯は他の業界とは様相が異なっている。繊維産業は戦後日本のリーディング産業であった。その繊維産業が、国内市場のかなりの部分を輸入にとられ、輸出競争力を失って久しい。特にアパレル製造業は致命的である。この凋落の原因を辿ることは、日本の産業界全般の将来を見通すことであり、日本の産業構造の特異性を見つめなおすことでもあると思われる。逆境から逃げ、アイデアを借りるという、日本人の弱い側面を全面的に露呈したのが、デザインと技術が生命のアパレルであった。一方、このような繊維産業の中にあって、優秀な人材と確かな技術力を基礎に展開されてきた新合繊は、今日も強い国際競争力を持っており、他の追従を許さない成果を保ち続けている。本書は多角的に繊維産業の業態を分析し、日本産業の縮図、ひいては日本人の本質と問題点を示唆している。

■清 水 康 行（日本文学科教授）

①酒井邦嘉著『言語の脳科学－脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書 2002年

②R.M.W. ディクソン著 大角翠訳『言語の興亡』岩波新書 2001年

言語とは何か、という課題に挑む道筋は、多岐にわたる。ある者は脳を覗き込み、ある者は密林に分け入る。①では、チョムスキーの下で学んだ経験もある気鋭の脳科学者が、人間の脳内に「自然法則」として生得的に備わる「文法」を明らかにしようとする認知脳科学の成果と展望とを語る。②では、オーストラリア原住民諸言語などを長く研究してきた著者が、人類十万年以上の歴史を視野に、「断続平衡」というモデルから、言語の多様性と類型性、分裂と収束のプロセスとを総合的にとらえようとする。それぞれに全く異なる立場からではあるが、双方の著者の、言語の本質に迫ろうとする情熱と確信に満ちた語り口は、読む者に多くの刺激と新たな知見とを与えることだろう。

■加 藤 雅 子（英文学科助教授）

フリッパ・ファン・フォーン・シボルト著『日本』監修・岩生成一＜全9巻＞雄松堂書店 1977年

オランダだけでなく全ヨーロッパの日本研究の中で最も大きな存在として燦然と輝く名著を世に残したシーボルトは、1796年にドイツのゲルブルグで生まれ、1823年に鎖国時代の長崎の出島にオランダ商館の勤務医として来日した。当時、貿易拡大を図っていたオランダ政府は、シーボルトに総合的且つ科学的な調査研究の任務を与え、積極的に支援した。そのため、シーボルトは長崎での臨床活動や鳴滝塾での医学や博物学などの教育に携わる傍ら、日本研究の資料を精力的に収集した。1830年にオランダのライデンに居住し、『日本Nippon: Archiv zur Beschreibung von Japan』や『日本植物誌(Flora Japonica)』などの研究書を発表。特に、『日本』は、日本とその隣接国家・地域をも含めた歴史・地理・文化・芸術・宗教など、さまざまな分野にわたって、日本と日本人を深く愛した著者の代表作である。本著は日蘭学会の監修の下に、原著の全貌を最もよく伝えている完訳書である。

■清 永 賢 二（教育学科教授）

青沼陽一郎著 『池袋通り魔との往復書簡』 小学館文庫 2002年

この暑い夏を過ごしている皆さん。この1冊はきっとあなたを寒くする。

季節は秋とはいえ残暑厳しい1999年の9月8日。場所は東京池袋の雑踏。人は刃渡り14センチの包丁と重さ270グラムの金槌を握る23歳男性。二人の死者。多数の重軽傷者。物（ブツ）は著者と「いきがった」犯人との重い結論の出ない書簡のやり取り。

昨今のやり切れない通り魔事件の多発。知りたいことは、どんな人間が、どんな心理で、それに至ったかだ。だが事件が大きいほど、知りたいという期待が大きいほど、答えは得られない。酒鬼薔薇も大阪附属小学校の児童殺傷事件の犯人もそうだった。事件の底には大きな闇を抱えた人間の存在だけがどんよりと浮かぶ。彼らだけではない、私も含め人間は闇を抱える。人殺しには自分にも説明できない「闇」さえあればよい。本書は人間の「分からないこと」が「分かる」良書である。

■須 賀 哲 夫（心理学科教授）

山本周五郎著 『将監さまの細道』『その木戸を通して』『大納言狐』など短編

クロマニヨン以来の不易の人間性を広言する立場からすると少し心配ではある。モーパッサンの短編「母親」（天性の母親）を読み2001年9月11日のアメリカ政治経済中枢へのテロ（「世界への」ではなく「アメリカへの」攻撃である、また、「民主主義への」ではなく「アメリカご都合主義政治への」攻撃である）を重ねて考えることが現代の若い女性に可能だろうか。普遍性という芸術の基準に照らして心配である。山本周五郎の諸短編だと心配はやや大きい。モーパッサンと違って「つくりもの」である。別に悪いことはなくて、西鶴のつくりものは太宰によれば「古今最高の作品」である（まさかね）。まあ騙されたと思ってご覧下さい。読んで感心しないときは、騙されたなどと思わず、何年おきかに繰り返し読んでいる老人がいることを考えてみるのも一興でしょう。

■杉 森 長 子（文化学科教授）

E.H.カー著 清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書 1962年第1刷・1991年第45刷発行

本書は、約50年前、E.H.カーがケンブリッジ大学で行った連続講演「歴史とは何か」を収録したものです。私が本書をすすめる理由は、本書が現代における最も優れた歴史学者の書物であり、著者が最も卓越した歴史家であるという訳者の紹介ゆえではありません。著者がちょうど100年前に生まれた人であるにもかかわらず、「歴史は、現在と過去の対話である」と本書で繰返し述べる彼の歴史観に優れた現代性を見出すからです。皆さんはアジア、アメリカ、ヨーロッパあるいはオーストラリア、ニュージーランドなど、地球的規模で行動できる環境にあり、将来、地球規模で活動する可能性を持っています。このような時代を生きる皆さんが行動と経験を真に意味あるものとするためには、地域や国を超え、時間と空間をつなぎ、真実を見極める歴史認識を持つ必要があります。そのためにこそ、『歴史とは何か』をぜひともお読み下さい。

■木 村 武 二（物質生物科学科教授）

①J. メイナード スミス著 木村武二訳『生物学のすすめ』紀伊国屋書店 1990年

②野澤謙著『ネコの毛並み：毛色多型と分布』裳華房 1996年

「生き物は好き、でも生物学はどうも」という人はかなり多いようである。しかし、生き物（人間を含めて）が好きならば、それが生きているさまざまなしくみについても一通りは知っていて欲しいのだが、そのための万人向けの適当な読み物となるとなかなか見つからない。その中からあえて二冊を選んでみた。①は著名な進化学者が、「生きているとはどういうことか」について、生物学のさまざまな分野で扱われる生命現象を、どのように考えるべきかを易しく解説した入門書である。ただの教科書との違いは全体を通して著者自身の生命観、特に進化という中心的課題を背景とした考え方を鮮明に打ち出している所にある。②はさまざまなネコの毛並みが遺伝子の組み合わせによってきちんと決定されるという事実を中心に、集団遺伝学の原理をやさしく解説したもので、絵画の中のネコの毛並みや日本ネコの系統についても論じていて興味深い。

宮本美沙子著『全人教育を願って』の紹介

大畑 祥子



前学長宮本美沙子先生が式辞やエッセイを、ご退任を期に収められたのが本書である。「女子教育のパイオニアとして、多くの優れた女性を社会に送り出してきた本学では学問の究明とともに人間形成を大切にしています。(MEJIRO TIMES No.1 2001)」と新入生に向けてのメッセージにもあるように、歴史とその良き伝統を身をもって伝達される先生が著された書名が『全人教育を願って』である。知識のみに偏らず調和のとれた人間性の成長を目指す全人教育への願いをこめて、先生ご自身によって選択、構成された記念出版書である。

研究者としての深い洞察力和豊かな学識に基づき、温かいお人柄をとおして、常にその内容が明瞭に簡潔に語られる。学長としての式辞は、その場に居合わせた聞き手によって受け止められ、それが一人ひとりの貴重な時間が集まったものとして実感できる雰囲気を感じていたのは私ひとりではなかったであろう。そしてこの度、その講話や随想が著された著書を手にするとき、聴衆として共有した臨場感とはまた異なり、それぞれの思いをもって読み返して確認したり、たくさんの新たな発見ができるのも大きな魅力である。

I 若人(大学生)へのメッセージ は成瀬仁蔵先生の理念が最初に語られ、その建学の精神を踏まえて、知性と感性の統合された個の確立を、と本書のテーマである「全人教育」が提示される。新入生には主体性と共生の大切さを、三大綱領とともに話されながら本学に学ぶ意義が伝えられ、卒業生には国際化の時代に向けて女性の「エンパワーメント」を期待して自らの可能性を自覚し、それを社会のために発揮するようにと励まして送り出される。そして生涯学習やリーダーシップなども理論的に分かりやすく説明がなされる。その他イメージの理論を生かした実践のすすめ、創造性の過程、分化と統合など、いずれのテーマも大理論の要点が分かりやすく述べられていて、興味はつきない。そしてまた学園祭に寄せて各年のテーマに対して書かれた一文は、ピリッと一味きいた短いコメントの中に、先生のご見識の高さがうかがえる。

II 若人(附属の生徒・児童)へのメッセージ は幼稚園児から高校生を対象とされたものである。高校生には寺田寅彦の「科学者とあたま」を引用し、創立者の各人の持味を尊重するという教育観にふれられている。どのページを開いても質的に高い内容が年齢に応じて語られている本章は斯界最高の研究者・教育者としての魅力にあふれている。「釣鐘」「紙ピアノ」「七転び八起き」「和」「楽しかった幼稚園」など意味深い。

III 学園へのメッセージ は広く社会に目を向けつつ、本学の近況報告を踏まえて21世紀の本学の使命が記されている。学園内の各機関への巻頭言や挨拶には人間教育に関する理論や新しい情報が織り込まれ、読者(聞き手)に説得力をもつものとなっている。「言語性と非言語性のコミュニケーション」や「社会性と社交性」などは身近な問題として示唆が得られる。

IV 随想 はまさに先生ならではの内容であり一読していただくように期待したい。

失礼な言い方をお許しいただけるなら、どのように難解にみえる内容であっても先生の「要点だけ若干表現をやさしく私なりにいわせていただく」といわれる学識の魔術にかかると、たちまち分かりやすくなり、根幹にかかわる概念はしっかりと認識されるのが特長ではないかと思われる。このように絶えず建学の精神が通奏低音として響きながら、高い学識が旋律として奏される名曲にもたとえられる著書であり、興味あるいずれのページからでも読み進められる学園関係者必読の書としておすすめしたい。

(児童学科教授)

* 目白・西生田所蔵 請求記号377.04-Miy (非売品)

「森戸文庫」—玄関ホール展示—



2002年5月20日から7月25日の期間、図書館玄関ホールにおいて、「森戸文庫」の展示を行った。1963年に日本女子大学図書館は、森戸辰男氏（1888～1984）より、その蔵書の一部を受贈した。これらの受贈図書は、その内容のすべてが優れて婦人問題関係文献という点で特徴があり、英独仏の洋書を中心に、19世紀後半より20世紀初頭にかけての女性論、婦人運動、婦人生活に関わる洋書168冊、和書131冊で、「森戸文庫」と称している。

今回の図書館玄関ホール展示では、昨年12月に成瀬記念講堂で行われた日本女子大学創立100周年記念特別展示「女性史をひらく—本学図書館所蔵の貴重図書より」を再現したものであり、和書37冊、洋書14冊の図書を選択して展示した。

2002年5月25日・26日には、本学で社会政策学会が開催され、多くの方々が見学された。



同時に特別に展示した森戸辰男氏直筆の短冊「春在枝頭已十分」は、上村美紗子氏（図書館事務部長）所蔵による。同氏は1995年に桜楓会奨学金を授与され、『日本女子大学図書館蔵 森戸文庫目録（稿）』を編集された。この短冊は、その折に森戸辰男氏の御令嬢檜山洋子氏（本学出身）より、記念として贈られたものである。

春在枝頭已十分

＜出典＞ 〔戴益，探春詩〕尽日尋春不見春，芒蹊踏遍隴頭雲，歸來適過梅花下，春在枝頭已十分。

＜よみ＞ はるはしとうにあつてすでにじゅうぶん。

＜大意＞ 枝頭の梅花によって春の既に来れるを知ること。

◇花を探し求めて終日、随分遠くまで尋ね歩いた。花は見つからず、疲れ果てて帰宅してみると、そこに花は咲いており、春は我が家にすでに十分にそなわっていたのである。

◇『孟子』にも、「道はちかきに在り、而もこれを遠きに求む」の一節がある。『故事成語大辞典』（簡野道明著）では、釈意はむしろ、その項へ参照させている。「道理は卑近にして、我身に切なる処に存ずるものなるに、之を希求する人、その方法を誤り、徒に高遠に駆す。故に、一も得ること能わざるの意。」とある。

◇学生に、よい教育をする大学、これを支える図書館、本、情報など。そこに本来備わる価値を見据える「回帰」へと惹かれる言葉である。



オンライン・データベース「ProQuest」の使い方

ProQuest ARL (Academic Research Library) について

図書館では今年4月より新たなデータベースとして、ProQuest ARL (Academic Research Library) を導入しました。ProQuest ARLはアメリカのProQuest Information Learning社が提供する人文・社会科学系の電子ジャーナルで、その中には2,500誌以上の索引データ、1,600誌以上の全文データが収録されています。収録誌は学術雑誌から一般雑誌におよび、New York Times, USA Todayなどの新聞も対象誌となっています。提供されるデータの形態は、索引・抄録、全文+画像に加え、各記事・論文のページイメージとなっています。各誌の収録年代は古いものは、索引データは1971年以降、全文は1987年以降からが範囲となっていますが、個々の雑誌・新聞により非常にばらつきがあります。すべての雑誌・新聞が、すべての期間において全文データで提供されているのではないということにご留意ください。

ProQuest ARLの検索のしかた

ProQuest ARLは学内LANに接続しているパソコンなら、図書館だけでなく研究室やコンピュータセンターなどからでも使えます。(学外[例えば自宅]から利用することはできません。)

まず図書館のホームページから学外サーバにアクセスしてください。「学外の図書館関係wwwサーバ」の画面の右上に「学内からのみ利用可能」という部分がありますので、そこをクリックしてください。すると「学外サーバ(学内からのみ利用可能)」という画面に移ります。そこにオンライン情報検索のデータベースが並んでいますが、上から2番目の「ProQuest」を選ぶとProQuest ARLのBasic Searchの検索画面に入ることができます。

<Basic Search画面>



The screenshot shows the ProQuest Basic Search web interface. It includes a search bar at the top, a 'Search' button, and several filter options. Numbered callouts point to the following elements:

- ① Date range: A dropdown menu showing 'Current (1899 - Present)'.
- ② Publication type: A dropdown menu showing 'All'.
- ③ Search in: A dropdown menu showing 'Citations and abstracts'.
- ④ Show results with full text availability only: A checkbox.
- ⑤ Show peer reviewed publications: A checkbox.
- ⑥ Show total number of articles: A checkbox.

Below the screenshot, detailed descriptions for each callout are provided:

- ① Date range
: 発行年代を指定します。Current (1899 - Present) / Back file (1966 - 1998) / Deep Back file (Prior to 1966) から選択します。
- ② Publication type
: 雑誌 (Periodicals)、新聞 (Newspapers)、またはその全て (ALL) を指定して検索します。
- ③ Search in
・ Citations and Abstracts
: ProQuest に索引された以下のフィールド中に現れる語句またはフレーズを検索します。
Author, Article Title, Product Name, Abstract, Geographic Name, Source (Publication Name), Company Name, Personal Name, Subject Terms
・ Article Text
: 記事の抄録やタイトルに加え記事全文も検索します。
- ④ Show results with full text availability only
: 検索の対象を全文のある記事のみに限定します。
- ⑤ Show peer reviewed publications
: 検索の対象を査読誌 (投稿されてきた論文を他の研究者が査読し審査した後で掲載することを方針とする雑誌) のみに限定します。
- ⑥ Show total number of articles
: 検索結果の総数を表示します。チェックを付けると件数は50件単位で表示されます。

Baisic Searchでは、単語またはフレーズを入力し[search]をクリックすると検索が実行されます。検索結果を絞り込んだり広げたりするために、AND、ORなどの論理演算子も利用できます。(例えば immigrants and Japanese American のように入力します。)

< 検索結果表示画面 >



検索を実行すると、検索結果の記事・論文一覧とそれらの記事・論文が提供される形式が表示されます。希望の記事・論文をクリックすると詳細が表示されます。

記事・論文の表示形式と絵の意味は上記の説明のようになります。ページイメージは、PDFファイル形式で提供されていますので、Acrobat Readerが入っているパソコンなら、雑誌の発行時のページと同様の状態で表示することが可能です。Full Text, Text+Graphics, Page Imageで提供されている全文データは、表示の形式が異なっているだけで内容は同じものです。Citation/abstractのみの表示のものは全文データは提供されていません。(例：上記の3. や5. の記事)

その他、項目を絞った検索をする場合の Guided Search, 検索式の入力に慣れたユーザー用の検索画面 Advanced Search, 特定の雑誌・定期刊行物・新聞を検索する場合の Publication Search 等、さまざまな検索方法があります。詳しくは図書館に用意してあります「ProQuest 検索ガイド」をご覧ください。

(館員・参考係 飯山智子)

平成14年度 夏期スクーリング開館について

田島 明子

今年も図書館は7月29日（月）から8月31日（土）まで30日間、夏期スクーリング開館をいたしました。地球温暖化のせいここ数年、毎年「今年の夏は驚異的な猛暑」と言われているような気がします。その暑い暑い夏をスクーリングの授業に励んでいらした通信生の皆様方はさぞかし大変な思いをされたのではと推察いたします。

図書館は今年度5月より目白、西生田ともに入館システムを導入し、図書の貸出だけでなく入館するためにも図書館利用カードが必要となりました。導入直後はカウンターで館員が利用者に「図書館のカードを入れてください。」と叫び続けましたが2ヶ月がたち、やっと先生がたや一般の学生さんは慣れてくれたところでした。夏期スクーリング開館では毎年この期間だけ有効な利用カードを発行しています。従って、毎年来館されているスクーリング生の方々にも新たに利用カードを作っていただかなければならないわけです。お昼休みや授業終了直後など利用が集中することは予想されていたので、どうすれば、スムーズにあまりお待たせすることなく利用カードを発行することができるかいろいろ頭をひねったのですが、いかがだったでしょうか。これからもよりよい方法があれば改善していきたいと思っています。

利用状況についても入館システムの導入によるであろうと思われる変化がありました。入館者が減少し、登録者が増加したのです。登録しなければ入館できないわけですから登録者が増加するの

は当然ですが、入館者が減ったのは図書館を学習室として利用していた人たちが登録の手間が面倒と敬遠されたのではないかと思います。複写枚数が激減したのは、図書館の資料以外のコピーをとる人が減ったためでしょう。本来図書館の複写機は図書館資料をコピーする目的のためだけに設置されているのですが、実際にはノート等の複写をする人も多かったのです。図書館資料のコピーをしたい人たちには待ち時間が少なくなって歓迎すべきことだったのではないのでしょうか。

「雑誌の1ページをコピーしたいだけなのに登録してカードを発行してもらわなきゃならないなんて、とっても不便」とお感じになった方もおられるかもしれません。大学図書館として多様化する利用者の方々に、より安全によりよいサービスを提供するための方策のひとつとご理解いただきますようお願いいたします。

(館員・閲覧係)

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	14	13	12
開館日数	30	31	31
入館者数	13,502	15,490	15,883
1日平均	451	500	513
最高	919	616	660
最低	325	328	355
受講者数	2,370	2,622	2,866
登録者数	1,181	965	1,018
1日平均	40	32	33
貸出冊数	4,762	4,999	4,909
1人当たり	4	5	5
1日平均	159	162	159
最高	286	256	241
最低	61	85	100
貸出日数	30	31	31
複写枚数(2F)	40,705	59,721	62,067
1日平均(2F)	1,357	1,927	2,003
複写枚数(1F)	16,226	17,296	14,811
1日平均(1F)	541	558	478
一般学生・教職員 その他の貸出 1日平均	2,373	2,560	2,674
	79	83	87

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	14 (20)	13 (19)	12 (21)
一般学生・教職員	95	107	145
スクーリング生・その他	49	64	93
合計	144	171	238
1日平均	7.2	9	11.3

編集後記 巻頭のカットは、西生田図書館で学生アルバイトをされている高山靖子さん(文化学科4年)にお願いしました。読書する秋を思わせます。「今、学生にすすめる本」の特集を参考にしてくださいね。平成14年度図書館だより編集委員：田口令子、中島和子、大沼真美、田代陽子、山村いづみ (田口)

日本女子大学図書館だより No.115 2002.11.15 図書館ホームページ <http://www.lib.jwu.ac.jp>

日本女子大学図書館発行 〒112-8681 東京都文京区目白台2丁目8番1号 ☎ (03) 5981-3195